

2018 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [宮城県富谷高等学校] 担当教諭名 [八島 美央・川尻 宏一] (ECC 国際部 20名)

相手国・地域 [タンザニア]

海外学校名 [Kola Hill Secondary School] 担当教諭名 [Lusajo Lyata / 岡本 翔太(JICA)]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	部活動	富谷高校アートマイル班(ECC 国際部)	30

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	Environment and future
<p>メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)</p>	<p>「女性が社会的地位を獲得し、これからの未来を作っていく」というメッセージを込めた作品になるように心がけた。下絵の段階では手に白本(未来)を持ち、背景を両国の国旗にしようと考えていたが、国旗以外のものも描きたいという思いが強まった。そこで、両国の代表する「山」、「動物」、「文化」といったものを選び、そのような出来事にかかわることができる女性像をイメージした。また、手に国旗を持たせることで、両国の友好を表すようにし、日本とタンザニアの交流をより一層深めていきたいという思いを込めることにした。そして、日本から見たタンザニア、タンザニアから見た日本というように、お互いに馴染みがない文化に触れることで、国際理解や異文化交流の架け橋になれば、というメッセージや、背景にある日の出からは「今後の女性の様々な場面での活躍」という願いも感じてもらいたい。</p>



本校生による作品部分



完成した作品を手にする相手校生徒

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<p>・今回で4回目のアートマイル参加になった。今年度の相手国はタンザニアということで、まずはタンザニアとはどのような国なのかを知ることからスタートした。地理の教員と連携して、タンザニアの基礎知識を学習した。また、国際理解講演会(本校の学校行事)を活用し、JICA ボランティアでタンザニア派遣経験のある講師から現地の話を知ることができた。生徒たちにとってあまり馴染みのなかったタンザニアという国を、少しずつ興味・関心を持つことができるようになった。</p> <p>・昨年度に引き続き、生徒同士をパートナーとしてペアを組ませ、お互いの国の文化や風土について調べ学習を行い、PowerPoint で作成したスライドを Skype 経由で発表することができた。お互いの発表後は英語で質疑応答を通じて、交流を深めることができ、有意義な時間にすることができた。</p>	<p>・県のシステムルールにより、今年度も学校の回線・パソコンを使って Skype を使用することができなかったので、私用パソコンと回線を使って行った。今回は PowerPoint の画面を Skype 上で見せ合う初めての試みを行ったが、不慣れな場面が多く、設置や通信試験に準備がかかってしまった。担当教員が来年度交代してしまうと、ハード面を含めて新たにやり方を考えないといけなくなってしまう課題が残っている。</p> <p>・テーマ学習において、何を調べて、どのように相手に伝えていくのかに時間も労力もかかってしまった。ある程度教員主導で道筋を立てないと、調べ学習で終わってしまったり、ネットに書いてある情報だけに頼ってしまったりするので、もう少し深い学びを追求できるようにすることが理想である。また、お互いの発表を英語で行う際に、緊張や不安からなかなか思うように話すことができない生徒も見受けられたので、少しずつ自分の意見を発表する練習を母国語でも行っていく必要があると感じた。</p>

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<p>・相手校がタンザニアに決まった段階では、タンザニアはどこにある国で、どのような国なのかも知らない状況であった。授業や相手校からの動画を見ることを通じて、タンザニアの学校生活を知ることができた。授業風景・ランチの様子・生徒たちの様子から、日本の学校との違いを理解することができた。また、相手校の担当者から「宗教」についても是非知って欲しいということが提案された。日本の宗教観とは異なり、タンザニアでは宗教がごく自然にありふれたものであり、日常生活の中に浸透していることが分かった。</p> <p>・Skype 交流をする直前は、生徒の表情にも緊張と不安が強く表れていたが、お互いに第2外国語が英語と言うことで、正しい英語を話すことよりも、自分の思いを伝える努力を意識させた。実際にタンザニアの学生たちと英語で会話をし、自分の話したことが相手に伝わったり、相手の英語を聞き取ったりすることができたことから、異文化交流に自信を持つことができた。生徒一人一人の表情も明るく楽しそうであり、またこのような機会があればやってみたいという声を聞くことができた。</p>	<p>・今年度アートマイルに初めて参加し、知っているようで知らないことが多いことに改めて気づくことができた。相手校のタンザニアについて知る機会ができただけでなく、日本とタンザニアの交流を行っている自治体が身近にあることも分かった。当初の計画では山形県長井市からタンザニア国籍の方に来校願い、地域・風土・文化について話を聞く予定であったが、台風の影響で中止になってしまったことが残念であった。実際の話聞くことはできなかったが、地域の人材を活用することの必要性を強く感じた。</p> <p>・また、自分たちのことを知ってもらうことも大切であり、そのような観点からはフォーラムの活用が大いに役立った。自分たちの取り組みにフィードバックがあると、生徒だけでなく教師側も励みになった。Skype 交流ではリアルタイムでの対話になったため、ある程度臨機応変さが求められた。しかし、生徒たちも何とか英語でコミュニケーションを図ろうとする姿勢が見受けられたので、このような活動機会を増やしていくことが、異文化理解につながるのだと感じた。</p>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	7月 ～ 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本や自分達の紹介をした。送ったものは「校舎のドローン撮影動画」,「メンバー全員の集合写真と個人写真」,「手書きの自己紹介カード」,「日本のお土産」などである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手校から送られてきた写真や手紙を見て,とても喜んでいる様子だった。自己紹介動画では,生徒の話す英語を聞き取ることができ,自信へとつながっていた。 ・本校生と相手校の生徒をマッチングし,基本的なやり取りをするメンバーを固定化することによって,より親しみを感じることができた。 	部活動 5
共有 テーマ学習	10月 ～ 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事である「国際理解講演会」において,タンザニアでJICA活動に従事した方から講演していただいた。 ・相手国について自分たちで調べ,地理・音楽・食べ物・言語・歴史についてPowerPointを作成し,それに基づいてSkype交流を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タンザニアに関する話を聞いたり,自分たちで調べたりすることで,相手国について理解を深めることができた。特に,現地で活動した方の講演においては,ネット情報以外の知識も知ることができた。 ・自分たちで調べた内容を英語で発表したり,質疑応答をしたりすることができ,英語を使った活動にも自信を持つことができた。また,Skype交流をしてみたいという声が多数を占めた。 	部活動 7
融合 想いを形に ・メッセージ ・壁画デザイン	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・教師側でデザインのラフ案をお互いに考え,お互いの国の女性が白本を持ち,背景に国旗を描くことを提案した。 ・教師側のデザイン案をベースに,お互いが調べた相手国についての情報を,生徒自身が重ね合わせていくことにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的なテーマや構図を決める上で,生徒たちが話し合う機会を設けた。下絵に入るまでの段階で時間を要したが,デザインが決まると作業ははかどり始めた。 ・実際に下絵を壁画に描いていく段階で,白本・国旗背景では上手く構図にできないことが分かり,適度に修正しながら下絵を作ることができた。 	部活動 10
創造 壁画制作	12月 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・タンザニアを代表するものとして,動物・食べ物・音楽・地理・民族衣装を選び出し,下絵を完成させた。 ・完成した下絵を基に壁画の色塗りをした。タンザニアの国旗を中心となる女性の手に持たせた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タンザニアを代表するものは何なのかを考え,お互いに意見を共有することができた。 ・自分たちで調べた文字情報を,どのように絵で表現していけば良いか,お互いにアイデアを出し合い,楽しみながら作業を進めることができた。 	部活動 5
評価 振り返り 自己評価	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・一般生徒や来校者に見てもらえるように,生徒昇降口付近に壁画を展示した。 ・生徒向け通信(ニュースレター)の中で,アートマイルの取り組みを紹介した。 ・生徒にアンケートを実施し,タンザニアの生徒たちへのメッセージや,次年度に向けての反省を記入させた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的評価 異文化理解を深める良い機会となった,協力して作業を進めることができた,日本文化をもっと知ってもらえるように英語で発信したいと思った ・否定的評価 役割分担を明確にして作業を行えば良かった,自分の思いを上手く絵にすることができなかった,「融合」場面で相手校ともう少し議論できれば良かった ・一般生徒の目に触れる機会を通じて,アートマイルの取り組みが認知され,次年度の有志生徒の参加意欲につなげることができた。 	部活動 3

■アートマイルでつけた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つけた力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	お互いの国の調べ学習を行った際に、日本の文化がどのように相手から見られているのかを知る機会があった。
異文化を理解する力	4	インターネットや相手国からの情報、外部講師の講演を通じて、タンザニアという国や文化を知る機会があった。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	2	インターネットの情報が主体となってしまったので、相手校にインタビューする、地域人材を活用するなど、今後の課題が残った。今年度は文化祭において、アートマイルの展示のみに留まってしまったので、全校生徒に周知できるような取り組みを検討したい。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	4	Skype交流を通じて、お互いに調べたことを発表したり、質疑応答をしたりすることができた。自分の考えを英語で表現したいという意欲も高まったので、今後も継続して取り組みたい。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	2	自国の文化と相手国の文化を比較する機会を設けることができなかったため、日本とタンザニアの文化の違いを調べて発表することも大切だと感じた。
主体的に考え行動する力	2	相手国を調べたり、壁画を作成したりする場面において、グループで話し合うことまではできた。しかし、そこから自分たちの考えをテーマに沿ったものへ形として表すことに苦勞し、最終的には教師側である程度の指導が入ってしまったのが残念であった。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	4	相手国の調べ学習を行う際、分野毎にグループを作成し、協力して作業を進めることができた。また、Skype交流でも相手校の生徒とペアを組み、お互いの発表を英語でやり取りすることができた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	2	テーマに沿った調べ学習をすることができたが、どのような絵で表し、メッセージを込めるのかがかなり苦勞した。今後はもう少し時間をかけて話し合い、相手校とも意見のやり取りを行っていききたい。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	4	生徒のアンケートより、相手を受容する気持ちや、異文化を理解しようとする肯定的な意見が見受けられた。相手校が描いた部分にも触れるコメントを記入した生徒もあり、英語でコミュニケーションをもっと図る機会を設定できるように、次年度はより良い学習にしていきたい。